

読書の範囲を広げようとする態度を育てる指導の工夫 ー読書アニメーションの手法を通してー

八重瀬町立東風平小学校教諭 比 嘉 瑞 恵

内容の概要

読書の範囲を広げようとする態度を育てるため、説明文の学習指導の中に読書アニメーションの手法を取り入れた授業を展開し、読むことの授業が読書活動に結びつくように工夫した。

その結果、説明文のおもしろさを実感させ、読みの力を育成することができた。また説明文の内容に関連のある科学的な読み物への興味が高まり、知的好奇心が育ち、進んで科学的な読み物へと読書の範囲を広げようとする態度の育成ができた。

【キーワード】 読書の範囲を広げようとする態度 読書アニメーション 読みの力
知的好奇心

目 次

I	テーマ設定の理由	13
II	研究仮説と検証計画	
1	研究仮説	14
2	検証計画	14
III	研究内容	
1	読書の範囲を広げること	14
2	読書アニメーションについて	16
IV	授業実践	
1	単元名	17
2	教材名	17
3	単元設定の理由	17
4	単元の指導目標	18
5	単元の指導と評価計画	19
6	本時の指導	20
7	授業仮説の検証	21
V	研究の考察	
1	説明文のおもしろさを実感させ、読みの力を育てることができたか	22
2	科学的な読み物への興味を高め、知的好奇心を起こさせることができたか	23
3	読書の範囲を広げようとする態度が育ったか	23
VI	研究の成果と今後の課題	
1	研究の成果	24
2	今後の課題	24

読書の範囲を広げようとする態度を育てる指導の工夫 ー読書アニメーションの手法を通してー

八重瀬町立東風平小学校教諭 比 嘉 瑞 恵

I テーマ設定の理由

国語科が目指すもの

学習指導要領
より

国語科では、生涯にわたって読書に親しみ、読書を通して生活を豊かにする人間の育成を目指している。読書は国語力を構成している「考える力、感じる力、想像する力、表現する力、国語の知識等」のいずれにも関わり、これらを育てる上で中核となるものである。児童の思考力が飛躍的に伸びる中学年の時期に読書指導を充実させ、読書の範囲を広げようとする態度を育てることが、今後の読書生活を充実させることにつながる。

これまでの課題

質より量の読
書指導

教師は児童にたくさん本を読ませたいとの思いから、質より量を重視した読書指導を行ってきた。月ごとの目標冊数を設定し、本を借りたらシールを貼らせたり、目標冊数を達成できたらミニ賞状を与える事で意欲付けを行った。その結果、ほとんどの児童は目標冊数を達成することができた。しかし、全体貸出冊数を分野ごとに分類してみると、読書傾向が絵本や物語に偏っていることが分かる(図1)。

絵本や物語へ
の偏り

また、児童がどの分野の本を一番借りているかを個人別貸出統計で調べてみると、借りた本の分野で絵本を一番多く借りている児童が全体の77%もいる。(図2)。児童の絵本に対する興味関心が高いことと、読書冊数を達成するためにすぐ読み終えることのできる絵本に読書分野が偏るという課題がある。

週1時間の図書館利用の時間においても課題がある。それは児童に読書の視点を与えずに本を選ばせることが多かったことである。その結果、児童の読書分野の興味の開発ができず、読書の範囲を広げることができなかった。そのため児童は絵本から脱却ができていないという課題である。

本研究において

児童の読書範囲を広げるためには本との出会いが不可欠である。これまであまり読まなかった分野の本と出会い、その本のおもしろさを知ることによって興味や関心が高まり、読み広げることで読書の範囲も広がると考える。本研究ではヤドカリとイソギンチャクの共生関係について書かれた説明文の教材と関連させて、児童があまり読まなかった科学的な読み物との出会いの場とする。そして説明文の内容に興味を持たせ、読む力を育成するために、その指導過程の中に読書アニメーションの手法を取り入れる。読書アニメーションとは、読書に対して興味の薄い児童に本への興味を持たせ、本の世界

読書アニメシ
オン

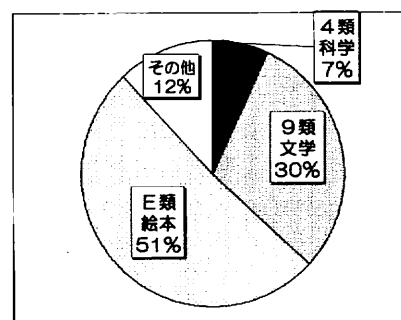


図1 分野別貸出冊数割合 (34人)

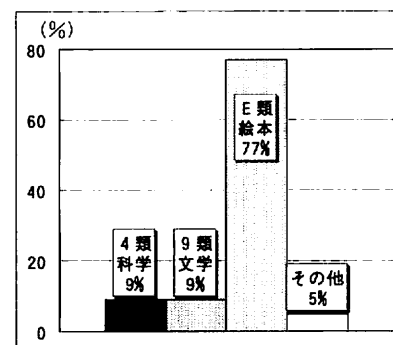


図2 個人別貸出統計の分析 (34人)

読解指導において

の入り口を開くためにスペインで開発された手法である。

読解指導の過程においては文章の大体を捉えさせる際、要点をまとめる際や学習内容を深める際に、ゲーム的な要素の読書アニメーションを取り入れることで説明文に対する苦手意識を取り除き、児童に説明文の楽しさを実感させたい。そして楽しく学びながら知ることの喜びを体験させ、読みの力を育成したい。

読書指導において

読書指導の過程においては本との出会いを大切に、出会った本に興味を持たせるために、グループで活動できる読書アニメーションの手法を取り入れる。そこからその本の内容に触れさせ、知ることの楽しさを感じ取らせることで科学的な読み物への興味を高め、知的好奇心を起こさせるように工夫する。それがその後の読書活動における読書の範囲を広げることにつながると思う。

よって本研究において、読書アニメーションの手法を取り入れた指導を行うことで読書の範囲を広げようとする態度が育成できるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

説明文「ヤドカリとイソギンチャク」の指導過程の中で、次のような学習指導の工夫を行えば読書の範囲を広げようとする態度を育てることができるであろう。

- (1) 読解指導の過程において、ゲーム的な要素の読書アニメーションを意図的、計画的に取り入れることで、説明文のおもしろさを実感させ、読みの力を育てる。
- (2) 読書指導の過程において、グループで活動できる読書アニメーションを取り入れることで、科学的な読み物への興味を高め、知的好奇心を起こさせる。

2 検証計画

対象児童 : 小学校4年生 (34人)			
教科名・単元名 : 国語科【ヤドカリとイソギンチャク】			
	検証の場面	検証の観点	検証方法
投入条件1	説明文「ヤドカリとイソギンチャク」の読解指導の過程 (第1時～第8時)	説明文の読解指導の過程の中に意図的、計画的に読書アニメーションの手法を取り入れることは児童に説明文のおもしろさを実感させ、読みの力を育てるのに有効か。	・読解指導後のアンケート ・単元終了後のテスト
投入条件2	「ヤドカリとイソギンチャク」の読書指導の過程 (第9時～10時)	読書指導の中にグループで活動できる読書アニメーションの手法を取り入れることは、児童の科学的な読み物への興味を高め、知的好奇心を起こさせるのに有効か。	・読書指導の授業後のふり 返しカードの感想の分析 ・単元終了後のアンケート
結果	授業終了後から7月いっぱい の読書貸し出し期間	説明文の指導過程の中に読書アニメーションを取り入れたことで、読書の範囲を広げようとする態度が育ったか。	単元終了後の読書傾向のグラフの分析 (全体的な読書傾向、個人別貸出統計)

III 研究内容

1 読書の範囲を広げることについて

- (1) 読書の範囲を広げようとする態度とは

目的によって
主体的に
進んで読もう
とする態度

多様な分野へ

自己形成
自己教育
コミュニケーション能力
視野を広げ、
深める

人間関係の希
薄化

活字離れ

時空を超えた
人間との出会
い

自分が興味を持っている分野の本だけではなく、他の分野の本にも興味や関心を持てる態度のことである。つまり楽しむ事を目的とした読書だけではなく、調べたり知識や情報を得るなどの目的によって主体的に本を選び、進んで本を読もうとする態度を「読書の範囲を広げようとする態度」ととらえる。

(2) 読書の範囲を広げることの意義

① 学習指導要領の「読むこと」の目標から

学習指導要領においては、読書に親しむ態度の育成を重視する考え方から、「読むこと」の内容の冒頭に読書的な読むことに関することが示されている。

低学年では、まず読書の楽しさを味わわせること、中学年では、多様な分野へと読書の範囲を拡大させることが重視されている。それが高学年において、思考力や想像力を育成することにつながるよう発展的・系統的に設定されている。「読むこと」の目標を表1に示す。

表1 「読むこと」の目標

	「C 読むこと」目標	読書指導において
低学年	楽しんで読書しようとする態度を育てる	読書入門期のこの時期には絵本や童話などの読み物に触れ、楽しんで読書する態度の育成を行う。読書の楽しさを感じ取らせるような指導が大切である。
中学年	幅広く読書しようとする態度を育てる	低学年における易しい読み物だけでなく、ふだんあまり触れ得なかった説明的な題材や詩などへ読書の範囲を広げさせる指導が大切である。
高学年	読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる	高学年になると、感性も豊かになってくる。これまで学習した読むこと的能力を一層充実させ、より主体的な立場で書物や図書資料を選び取らせていくことが大切である。

② 読書することの意義から

読書には間接的な体験を通して自己を育て、心を豊かにし、語彙を増やし、考えを広げるという効果がある。つまり人間は読書を通して自己を形成し（自己形成）、自己を教育し（自己教育）、自己を広げる（コミュニケーション能力）事ができるのである。しかしそれは自分が興味・関心を持っている分野の本だけを読むことだけでは育たない。偏った読書では考え方も偏ってしまい、広い視野で物事を判断することができない。自分の考えを広げたり深めたりするためには読む目的によって必要な図書を選び、幅広くいろんな本を読むことである。その基礎作りが中学年で読書経験である。中学年においていろいろな分野の本に触れ、読書の興味の開発を行うことは非常に重要だと考える。

③ 現代社会が抱える問題から

- ア 子供たちと大人が接する機会が減少したため、会話が減っている。
- イ 子供が大人を観察したり、大人から学ぶ場が減っている。
- ウ 知識や情報が膨大になっている。そして目まぐるしく変化しているため、大人が子供に何を伝えていいのか見極めることが難しい。
- エ テレビ、ゲーム、パソコン、携帯電話が子供たちの遊びになっていて活字離れが進んでいる。

このような現代社会においては、児童の判断力を育てることが大切である。忙しさや社会の急激な変化によって人間関係が希薄になり、学ぶ環境が乏しい現代社会において読書の受け持つ役割はかなり大きい。本には伝えるという役割がある。その内容は歴史的事件であったり著者の主義主張、自分が味わった喜び、風景の美しさ、言葉の響きのおもしろさ、新しい発見など様々である。そのように多様な考えに触れることや専門的な知識を学ぶこと、時空を超えた人間との出会い

いによって視野を広げることができる。大人から学ぶことが少なくなった現代社会においては読書することから学ぶ事が数多くあり、判断力を育てる上で欠かせない。そのためにも偏りなくいろんな本に触れることが大切である。

(3) 読書の範囲をどのように広げるか

読書の範囲を広げようとする態度を育成するためには、これまでのように自由に本を選ばせ、読む時間を与えるだけの読書指導を改めていく必要がある。また本への興味を育てるために、教室内完結型学習になっていた「読むこと」の授業を改善し、日常における読書生活の充実に結びつく授業を構築する必要がある。そのためにはこれまでのようなワンパターンの説明文の授業を改め、児童が「説明文の授業は楽しい」と感じるような授業を工夫する。ここでは教材文との出会いを大切にし、そこから広がりや深まりを持たせるため、図3のような方法で読書範囲を広げる。

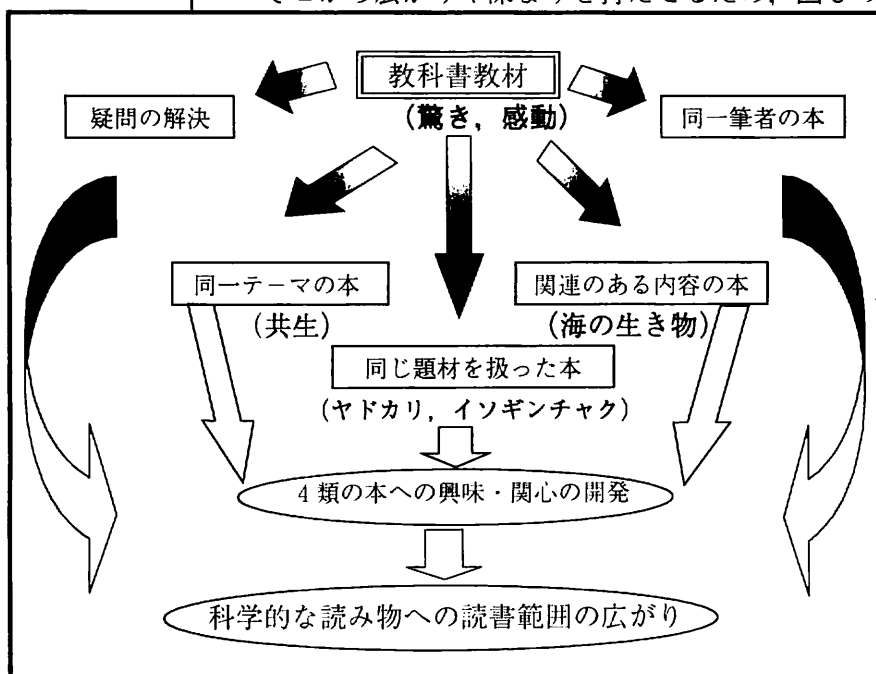


図3 教科書教材を拠点とした読書範囲の広げ方

導の授業が児童に驚きや感動を与えるものでなければならない。そのような授業を構築するための方法として、ここでは読書アニメーションの手法を取り入れた授業を行う。

2 読書アニメーションについて

「アニメ」とは「魂」で、「アニメーション」とは魂に命を吹き込み、活気づけることである。「読書へのアニメーション」の手法は、読むことの楽しさやワクワクするような精神の輝きと知的好奇心を起こさせ、児童一人一人が本を読んで理解し、深く考えて自分のものにすることができる力を引き出すために、スペインでモンセラ・サルトが開発した教育メソッドである。

(1) 読書アニメーションの目的

- ① 児童の読む力を引き出す
- ② 本の楽しさと奥深さを発見させる
- ③ 消極的な読みから積極的な読みへと前進させる
- ④ 本にはいろんなジャンルがあることを児童が発見するよう教え導く

(2) 読書アニメーションを用いて引き出す4つの力

- ① 読んだことを解釈する力
読んだことについて意見を持ち、中心となる考えを引き出し結論を導き、結果

予想する力	を予想する力である。
思考する力	② 記憶にとどめる力 読んだことについて意見を持ち、つながりのない別々な内容や伏線などのつながりなどを記憶にとどめ、思考する力のことである。
要約・一般化する力	③ まとめる力 物語のつながりをはっきりさせたり、要約したり、一般化したりする力のことである。
区別して捉える力	④ 評価する力 作者の言いたいことを捉え、原因と結果の関係をはっきりさせ、事実と意見とを区別して捉え、現実と空想を区別して捉えることができる力のことである。
読書アニメシ ョンの手法の 選択	(3) 読書アニメシンの手法について 読書へのアニメシンには75通りの手法があり、その手法には幼児、小学生、中学生、高校生などを対象にしたさまざまな段階のものがある。それぞれの年齢や参加する人数、読みの力などに合わせてどの手法が効果的かを考えて、取り入れる手法を選択する必要がある。内容はゲーム的な要素を含んでいるがそれは単なる遊びではなく「創造的な遊び」である。いろんな作戦を用いることで楽しみながら本の内容を理解させ、読書の喜びや意欲を呼び覚まし、自立した読み手を育てていくことが大切である。
分かる喜びや 感動 知識獲得の楽 しさ	(4) 読書アニメシンの手法を取り入れた読書指導の工夫 知的好奇心の強い小学校時代は「おもしろいから学ぶ」意欲の強い時代であり、そのため知的好奇心や探求心をかきたてる授業や分かる喜びや感動を与える授業が必要である。国語科においては、教材文の指導過程で、知識獲得の楽しさを体験させることが大切であり、そこから教材に関連のある本や同一作者の本を読ませるなどの工夫を行い、読むという行為そのもののおもしろさ、楽しさを体験させることに結びつける指導が大切である。そのような意味からゲーム的な要素の読書アニメシンの手法を用いて説明文の指導を行うことは、児童の説明文への苦手意識を取り除き、教材文の楽しさを感じ取らせるうえで効果的である。
楽しい学びの 場	75通りの手法は主に物語や詩で使われることが多い。ここではそれらの手法のねらいと学習内容とを照らし合わせ、説明文の読みの指導に有効な読書アニメシンの手法を取り入れた学習活動を展開する。そして楽しい学びの場を設定し、児童が意欲的に学習に参加できるように工夫する。学習内容の理解については個人差が大きいので、グループで活動できる読書アニメシンの手法も取り入れて、協力しながら読む力を高めていけるようにする。そこから物語や絵本に偏った読書傾向を、科学的な読み物へと広げていけるようにしたい。

IV 授業実践

- 1 単元名 だん落とだん落の結びつきを考えながら読もう
- 2 教材名 ヤドカリとイソギンチャク
- 3 単元設定の理由

- (1) 教材観 (省略) (2) 児童観 (省略)
- (3) 指導観

優れた説明文には、児童の知的欲求（知りたい、調べたい、解き明かしたい）を満たし、知る喜びを与える教育的価値をもつ内容や事柄がある。しかし説明文で用いられる用語は児童にはなじみにくい感じを与える。育った生活環境、言語環境な

どの違いによって科学的な内容への興味や関心の程度も差がある。特に論理的思考を伴う読解に対して抵抗を示す児童もいる。すばらしい説明文に出会っても読み取る前に抵抗を感じてしまったら内容の楽しさを実感することができない。そこでそのような抵抗を取り除くために表2のような手だてを講じる。

表2 読解指導と読書指導における読書アニメーションを用いた手だて

場面	読書アニメーションの手法	授業での用い方
読解指導過程において	言葉ではらいっぱい	言葉への抵抗を取り除くため「言葉ではらいっぱい」を取り入れる。これは、言葉の意味からその意味に当てはまる言葉をさがすゲームである。これを行うことによってゲーム感覚で言葉による関心を高めさせるようにする。
	前かな、後ろかな	文章の大体を捉えさせるために「前かな、後ろかな」を取り入れ、順不同になっているカードを元通りに並べ替えさせる。並べ替えたカードの順序が当たっているかどうかを意識させることで、教材文を読むときに段落の結びつきを考慮することができるようにする。
	ダウトをさがせ	意図的に読み間違え、それを見つけさせる。これによって大切な言葉や細かい表現にも注意しながら教材文を読む習慣につなげる。
	カットカットカット	要点をまとめる際は、キーワードを押さえ、意味を変えないで文章を短くするゲーム「カットカットカット」を取り入れ、文章要約力を付けさせる。
	クイズ大作戦	読み取った内容を元にして各グループでクイズを作らせ、それぞれでクイズを出し合うことで段落相互の結びつきや学習内容の理解を深めさせる。
読書指導	一緒の方がうまいく	本の題名、取り上げられている生き物、本の内容が書かれている色分けしたカードを児童に配る。自分のカードはだれが持っているカードと仲間なのかを考えさせる読書アニメーションゲーム、「一緒の方がうまいく」を行い、科学的な読み物に関心を持たせる。

読書アニメーションを取り入れた授業展開

読解指導では説明文への抵抗を取り除きながら、読みの力を育てていけるようにする。そして教材文の内容に興味を持たせることで、読書活動へとつなげる。

読書指導においては教科書教材に関連のある本を選定し、それを児童に与えることで科学的な読み物に出会わせる。そしてその本の内容に関するクイズをグループで力を合わせて読み取るようにさせる。その本の内容から初めて知ったことやおもしろいと思ったこと、そして驚いたことなどを紹介し合い、自分が読んだ本以外にも関心を持たせるようにする。以上の活動から科学的な読み物への興味を高め、読書の範囲を広げることにつなげたい。

4 単元の指導目標

(1) 単元の指導目標

- 中心となる語や文をとらえて段落相互の結びつきを考えたり、必要に応じて内容を大きくまとめたり細かい点に注意しながら、内容を読み取る。(読むことイ、オ)
- 教材文を拠点にして関連した他の文章を読むこと、疑問に思ったことなどについて関係のある図書資料を探して読む。(読むことにおける言語活動)

(2) 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	○教材の内容に興味を持ち、生き物や自然について書かれた本を積極的に読もうとしている。
書く能力	○文章の中の大切な言葉を選び、適切に要点をまとめている。 ○教材文の内容を根拠にして、クイズの問題を作っている。
読む能力	○問いと答えの関係に注意して、段落相互の関係を考えながら内容を正しく読み取っている。 ○目的に応じて必要なところをくわしく読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	○表現したり理解したりするために、必要な語句を増やそうとしている。 ○表現を工夫してクイズの問題を作るために、辞書等を活用している。

5 単元の指導と評価計画 (10時間)

段階	時	ねらい	主な学習活動・内容 …読書アニメーションの活動	教師の支援 留意点	★ 評価規準 【 】 評価の観点 () 評価方法 ※C児童への手だて
第一次	1	☆全文を通読し大まかな内容をとらえる。	○全文を通読する。 「前かな 後ろかな」 ・ばらばらに配られた文を学級みんなで協力して正しく並べ替えるゲーム。	・内容や問いかけの文に着目させ、自分が持っている文がどのあたりに入るか、考えさせる。	【関・意・態】 ★教材の内容に興味を持ち、大まかな内容をとらえようとしている。 (行動観察) ※友達の持っている文や指示語、接続語をもとに見当を付けさせる。
	2	☆全体を五つの意味段落に分ける。	○形式段落に番号を付ける。 ○意味内容から文章を五つのまとまりに分ける。 ○難語句を学習する。	・三つの問いがあり、それぞれに答えがあることを押さえる。	【読む能力】 ★全体を五つのまとまりに分け、小見出しを付けている。 (ワークシート)
第二次	3	☆第一段落から筆者が提起している問題を読み取る。	○第一段落を読む。(①②段落) 「ダウトをさがせ」 ・教師が意図的に読み間違える。それに気付いたら「ダウト」と言って間違いを指摘する。 「言葉ではらいっぱい」 ・教師が言葉の意味を言う。それにあった言葉を探すゲーム。 ○第一段落の要点をまとめる。	・意図的に読み間違え、内容のキーワードに着目させる。 ・カード早取りゲームを取り入れ、楽しい雰囲気を作る。	【読む能力】 ★筆者の疑問について読み取っている。 (ワークシート) 【言語】 ★言葉の意味を理解している。 (行動観察、ワークシート) ※問いかけの文末表現に着目させる。
	4	☆第二段落からヤドカリがイソギンチャクを付けている理由を読み取る。	○第二段落を読む。(③④⑤⑥段落) 「ダウトをさがせ」 ○第二段落の要点をまとめる。 「カットカットカット」 ・なぜヤドカリがイソギンチャクを付けているかの答えが分かる内容を取り出し、よけいな説明部分をカットする。	・問いかけの文の役割をしっかりと理解させる。 ・意図的に読み間違え、キーワードに着目させる。 ・段落の中で、ないと意味が通らなくなる言葉をさがさせる。	【読む能力】 ★二回の実験の方法と結果を比較してイソギンチャクの役割を読み取っている。 (ワークシート) ※1回目と2回目の実験の結果が違うわけを考えさせる。
	8	☆学習内容の理解を深める。	・グループに分かれて、問題を作る。 「クイズ大作戦」 ・それぞれのグループがヤドカリとイソギンチャクの関係や段落のつながりを確認できるようなクイズを作る。それを出题し合ってクイズ大会をする。	・どのような視点から問題を作ったらよいかを押さえる。 ・問題作成やクイズ大会を行うことで、学習内容を深く読み取らせる。	【読む能力】 ★段落のつながりやヤドカリとイソギンチャクの関係について理解している。(行動観察) ※答えられない場合は教科書を見るようにさせる。
第三次	9 本時	☆生き物や自然について書かれた本を読む。	「一緒の方がうまくいく」 ・本の題名、取り上げられている生き物、本の内容の三つの手がかりをばらばらに配る。同じ本の仲間を探してグループを作るゲーム。 ・グループに与えられた本を読む。 ・協力してクイズを解く。	・読書へのアニメーション「一緒の方がうまくいく」の説明をする。 ・目次や見出しを活用すると早く読み取れることを押さえる。	【関・意・態】 ★与えられた本に興味を持ち、意欲的にクイズに取り組んでいる。 (行動観察) 【読む能力】 ★クイズの答えを見つけることができる。 (ワークシート) ※グループの仲間の意見を聞くようにさせる。

	10	☆生き物や自然について書かれた本を紹介し合って読む。	・自分たちが読み取った本の内容を紹介する。 ・紹介された本や、それ以外の本で自然や生き物について書かれた本を選んで読む。	・前時の学習と関連させたり、それ以外の4類の本の中から選ばせる。	【関・意・態】 ★生き物や自然について書かれた本に興味を持ち、積極的に読もうとしている。 ※読みの力に合った本やその児童の興味や関心に応じた本を紹介する。
--	----	----------------------------	---	----------------------------------	---

6 本時の指導 (9 /10)

(1) 本時の指導目標

生き物や自然について書かれた科学的な本に興味を持ち、読むことができる。

【読むこと ア】

(2) 本時の授業仮説

読書活動の中で、グループで活動できる読書アニメーションを用いれば、科学的な読み物への興味が高まり、知的好奇心を起こさせることができるであろう。

(3) 本時の展開

過程	学習活動・内容 めあて 読書アニメーションの活動	教師の支援・留意点	★ 評価規準 【 】評価の観点 () 評価方法 ※ C児童への手だて ◇ 授業仮説の検証
導入	1 学習のめあてを確認する。 生き物や自然について書かれた本を読む。	・これまでの学習との関連を押さえる。 ・めあてを確認させる。	
展開	2 読書へのアニメーション「一緒の方がうまくいく」の説明を聞く。 3 カードの内容を読む。 読書アニメーション「一緒の方がうまくいく」を行う。 ・まず最初に本の題名を持っている児童が自分のカードを読み上げる。 ・次に取り上げられている生き物について書かれたカードを持っている児童がカードを読み上げる。 ・最後に本の内容について書かれたカードを持っている児童が自分のカードを読み上げる。	・本の題名、取り上げられている生き物、本の内容によって色分けしたカードを配る。 ・自分のカードを黙読させる。 ・みんなに聞こえる声でカードを読み上げさせる。 ・自分のカードの仲間はどれか考えながら聞くようにさせる。 ・自分がどこのグループに入るかわからない児童がいたら、みんなで考えさせる。	※自信を持って読めるように、黙読させる。 漢字には読み仮名をふっておく。 ◇読書アニメーションゲームに意欲的に参加しているか。(観察)
開	4 グループで、与えられた本に関するクイズを解く。	・調べるために、小見出しや目次を見ればよいことを確認する。 ・答えを見つけれないグループには援助をする。	◇与えられた本のクイズを解こうとしているか。(観察) ★【関・意・態】 ・与えられた本に興味を持ち、意欲的にクイズに取り組んでいる。(行動観察) ※友達の意見を聞くよう助言する。

		・クイズを解き終えたグループには、その本の内容をみんなに紹介できるようにさせる。 ・クイズを解き終えたグループに読んだ本の内容を紹介させる。	★【読む能力】 ・クイズの答えを見つけることができる。 (ワークシート)
終末	5 学習のまとめをする。 6 次時の予告をする。	・4類の本に興味を持たせるように話をする。 ・クイズを解きながらびっくりさせられたこと、初めて知ったこと、おもしろいと思ったことなどをワークシートにまとめさせる。 ・自分たちの本を他のグループに紹介し合って読むことを伝える。	◇科学的な読み物に対して知的好奇心を持つことができたか。 (ワークシート)

7 授業仮説の検証

〔授業仮説 科学的な読み物への興味が高まったか〕

(1) 単元終了後のアンケートから

読書アニメーションを取り入れた説明文の授業を行う前に「科学的な読み物に興味があるか」を調べたところ、34人中15人が「あまり興味がない」または「興味がない」と答えた。そこで読書アニメーションの手法を取り入れて読書指導を行った後に、「科学的な読み物に興味を持てたか」について全員にアンケートを取り、そのうち科学的な読み物に興味がないと答えた15人の児童の興味の变容を調べた。その結果を表3に示す。

表3 科学的な読み物に興味がないと答えた児童の变容 (34人中15人対象)

事後アンケート 事前アンケート	科学的な読み物に興味を持てたか		
	とても持てた	ある程度持てた	あまり持てなかった
科学的な読み物に興味がない児童 (15人)	5人 (33%)	9人 (60%)	1人 (7%)

アンケートの結果から、読書アニメーションの手法を用いて読書指導を行った結果、科学的な読み物に興味がないと答えた15人のうち、14人が「科学的な読み物にとても興味を持てた」または「ある程度興味を持てた」と答えている。

(2) 授業後のふり返しカードから

また図4は、「読んだ本の内容から、初めて知ったことやおもしろいと思っ

読んだ本から初めて知ったこと、おもしろいと思っ

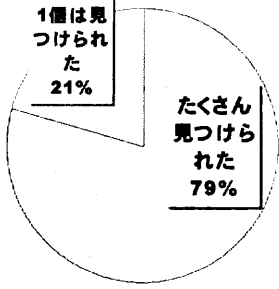


図4 読書指導後のアンケート (34人回答)

たことやおもしろいと思っ

※〔授業仮説 科学的な読み物への知的好奇心を起こさせることができたか〕については、研究の考察で述べる。

興味の高まり

科学的な読み物との出会い

V 研究の考察

- 1 読解指導の過程において、ゲーム的な要素の読書アニメーションを意図的・計画的に取り入れることで、説明文のおもしろさを実感させ、読みの力を育てることができたか

(1) 説明文のおもしろさを実感できたか

授業前のアンケートにおいて「説明文と物語はどちらが好きか」を調べたところ、34人中31人が「物語が好き、どちらかというと物語が好き」と答えた。説明文に対しては「おもしろくない」「嫌い」と感じている児童がほとんどであった。説明文が嫌いな理由としては、「授業がいつも同じパターン」とか「使われている言葉が難しい」ということがあげられていた。そこで、読書アニメーション



資料1 読書アニメーションの授業風景

の手法を取り入れ、このような説明文への抵抗を取り除くよう工夫しながら授業を進めた（資料1）。読解指導後に「説明文の授業は好きになったか」について全員にアンケートを取り、そのうち事前調査で「説明文より物語が好き」だと答えた31人の児童の意識の変容を調べた。その結果を表4に示す。

表4 説明文より物語が好きだと答えた児童の変容（34人中31人対象）

事後アンケート 事前アンケート	説明文は好きになったか		
	とても好きになった	好きになった	あまり好きではない
説明文は好きではない 児童（31人）	17人 (55%)	13人 (42%)	1人 (3%)

読書アニメーションを取り入れた説明文の授業後のアンケートにより、「説明文より物語が好き」だと答えた児童31人のうち、30人が「説明文を好きになった」と答えている。97%に児童に説明文に対する意識の変容が見られた。

このことから児童は説明文のおもしろさを実感できたといえる。

(2) 読みの力が育ったか

図5は「ヤドカリとイソギンチャク」の単元テストにおける度数分布である。

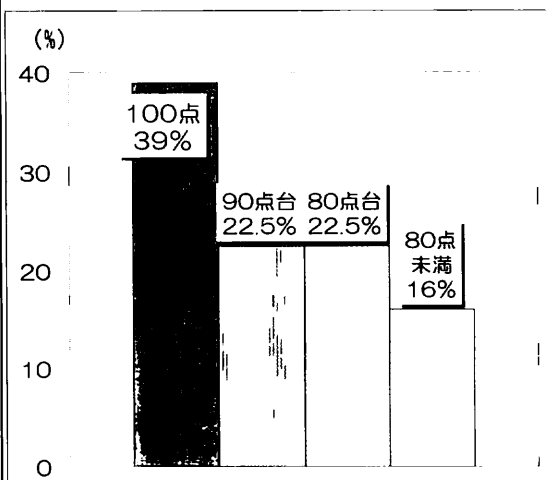


図5 単元テストの度数分布

この単元テストの期待得点は80点である。それを基準として読みの力が育ったかどうかを検証した。単元テストは31人（3人は欠席のため、未験）に実施し、そのうち、26人（84%）が期待得点を上回った。点数の内訳を見てみると4割近くが100点である。また、学級全体の平均点は86.9点でこれも全国平均84点を上回っている。読書アニメーションを取り入れることで、児童は楽しく授業に参加し、しかも教材文の内容もしっかり読み取れたといえる。

アンケートと単元テストの結果により、説明文の指導過程の中に読書アニメーションを意図的・計画的に取り入れたことで、児童は説明文のおもしろさを実感し読みの力も高まったといえる。授業後のアンケートで「読書アニメーションを取り入れた授業をしたいか」の質問には「とても

思う」と答えた児童は29人(85%)、「まあまあ思う」と答えた児童は5人(15%)で全員が「また読書アニメーションを取り入れた授業をしたい」と答えた。

以上のことから授業に読書アニメーション取り入れることは、児童に説明文のおもしろさを実感させ、読みの力を育てるのに有効な方法だといえる。

2 読書指導の過程において、グループで活動できる読書アニメーションを取り入れることで、科学的な読み物への興味を高め、知的好奇心を起こさせることができたか

ぼくたちグループは「コスモスと虫たち」でした。ぼくはゴヤをずっと見てました。コスモスもゴヤににていることが分かってとっても楽しかったです。こんどはゴヤについて本をよみたいです。

一しよのぼうがうまいくの勉強をやる4類の本の楽しさがとろも分かるようになりました。私たちがくらひの本を読んだ少しおつきょうみを持て果ました。知らなかつた事が分かるようになるのもう少し知らない事が書かれてる4類の本を読んではたくなりました。

アリと、ちゅうが、ヤドカリとイソギンチャクのように、たすけて、生きていけるという事がわかって、これからももっと生き物の本をよみたいです。

(1) 科学的な読み物への興味が高まったかについては授業の検証で述べた。

(2) 知的好奇心を起こさせることができたか

資料2は、読書指導後の児童の感想である。それをもとにして「知的好奇心を起こすことができたか」について検証してみた。すると「他の科学的な読み物を読んで、もっと不思議を発見したい」や「今日読んだ本をもっとじっくり読みたい」など、知的好奇心につながる感想が書けた児童は23人(68%)であった。これまでなかなか児童が興味を示さなかった科学的な読み物に出会ったことで、その本のおもしろさに気づき、さらにその分野の本を読み広げていきたいという思いが育った。

資料2 読書指導後の児童の感想から

「いろいろな事が分かった」「科学的な内容の本が好きになった」「分からない事が分かって楽しかった」など、科学的な読み物への興味が高まったことを示す感想を持つことができた。選択肢ではなく「科学的な読み物を読んだ感想」という視点の与え方だったため、児童の記述に「知的好奇心」の現れを表現できなかった児童もいたと思われる。今後も「分かることが楽しい」という気持ちを育てていく必要がある。

その他の11人(32%)の児童も「いろ

3 読書の範囲を広げようとする態度が育ったか(研究テーマの考察)

図6は授業前と授業後の読書傾向を調べたグラフである。

科学的な読み物への広がり

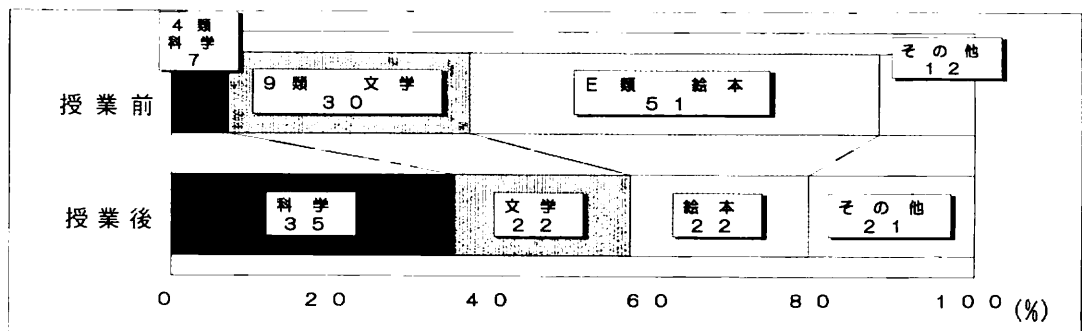


図6 読書傾向の変容

個人の読書傾向の広がり

図6から、授業前の読書傾向は絵本や物語への大きな偏りがあったが、授業後はその偏りが改善されていることが分かる。そして7%しか読まれていなかった4類の科学的な読み物が35%も読まれている。このことから絵本や物語に偏っていた読書範囲が科学的な読み物にも広がったことが分かる。

また図7は、科学的な読み物を借りた児童数の変容である。授業前は4月の貸し出し

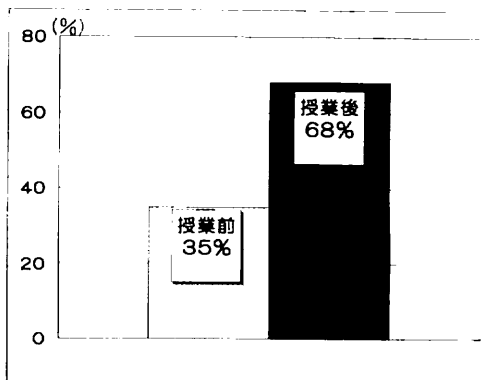


図7 4類の本を借りた児童数(34人中)

から6月中旬までに科学的な読み物を借りた児童が全体の35%であった。しかし「ヤドカリとイソギンチャク」の授業が始まった6月中旬からのデータを見ると、科学的な読み物を借りた児童の割合は、68%に増えている。

以上の2つのデータから、全体的な読書傾向が科学的な読み物に広がったことと、個人の読みの分野にも広がりがみられたといえる。しかし、今後も読書の範囲を広げようとする意識の継続を図る工夫が必要である。また科学的な読み物の分野の広がりだけでなく、今後はさらにいろんな分野へと読書の範囲を広げていくことが大切だと考える。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 説明文の指導過程の中に読書アニメーションの手法を取り入れることで、児童に説明文のおもしろさを味わわせることができた(表4 説明文より物語が好きだと答えた児童の意識の変容から)。
- (2) 読書アニメーションを取り入れたことで児童が意欲的に学習に参加し、読みの力が育った(図5 単元テストの結果から)。
- (3) 科学的な読み物への興味・関心が高まり、進んで科学的な読み物を借りる児童が増えた(表3 科学的な読み物に興味がないと答えた児童の意識の変容と、図7 科学的な読み物を借りた児童数の増加から)。

2 今後の課題

- (1) 科学的な読み物だけでなく、さらにいろんな分野に読書の範囲を広げさせていくための指導の工夫、改善を行う(図6、図7の考察から)。
- (2) 読書の範囲を広げようとする意識の継続を図る工夫を行う(図7の考察から)。

〈主な参考文献〉

M・Mサルト	『読書へのアニメーション 75 の作戦』	柏書房	2001 年
M・Mサルト	『読書で遊ぼうアニメーション -本が好きになる 25 のゲーム-』	柏書房	1997 年
斉藤 孝	『読書力』	岩波新書	2002 年
脇 明子	『読む力は生きる力』	岩波書店	2005 年
文部省	『小学校学習指導要領 国語編』	東洋館出版	1999 年